ど、先ほどの「書く 川畑▲描き文字の歴史を考えるとき、どこからはじめるのかが問題になりま 江戸まで遡るか、 もっと遡るのか……という話が当然でてくるんですけ

二年発売、現・守田治兵衛商店)からきたものなんですが、それを売り出した九 告に使われたんですが、ユーモラスで、味があって評判になったんです。 宣伝にすごく力を入れた人なんです。その九代目が書いた「寳丹」の書が広 代目守田治兵衛(一八四一~一九一二)がなかなか時代を先取りした人で、広告 まず寳丹とは、 明治四年に官許第一号公認薬となった「守田寶丹」(一八六

れた「花王石鹼」の商標に使われて注目され(一九三一年二月まで使用)、その 二四/本名=周二)が手がけた書風のことです。こちらは一八九〇年に発売さ 一九三〇年代の描き文字集でも紹介されています。 もうひとつの石埭流というのは、書家で漢詩人の永坂石埭(一八四五~一九 博文館の出版物などでも使用された書風です。 石埭流への評価は高く

体遙かに六朝風より通俗なりし為頓に各方面に賞揚せられ、近代の流行書 長坂石埭氏の支那趣味の書風が、近代人の嗜好に投じ、 本舗の長瀬商店及博文館の出版物に使用し始めてより、書放しの文字とし長坂石埭氏の支那趣味の書風が、近代人の嗜好に投じ、その始め花王石鹸 伝はる書体であらう。 体となつた次第である。 遠距離よりも識別し得る肉太にして、簡素洒脱の雅味ある書 確に明治、 大正、 にかけての産物として、

どちらも広告や商標に用いられた書風が、流行したというところです。

平野●寳丹って、 まだ上野にあるよね。

▲はい、 いまでも胃腸薬として販売されてますね。

に近いつくりだと思うけど、書でいう上品さ下品さでいえば、かなり下品ですね、 ^宮山■花王石鹼の石埭流、これは隷書だよね。 寳丹は隷書のような篆書のような……隷書 寳丹の

- ■書家が書いた例というのは、 ●その下品さが逆にアイキャッチャーになったわけじゃない。書道じゃないからね 戦後もたくさんあるんですか?
- ●あったでしょうねえ。ぼくはそのへん、全然くわしくないけど。むしろ気になる のは今の書だよね、ここ十年ぐらい。、日本、というのを強調しようとして書を使っ た商品ってすごく多いでしょ。
- ありますよね。『武者小路実篤全集』(全二十五巻、新潮社、 では、書のほうがメインですよね。出版の分野でも文人趣味みたいな流れが ンのなかで、和のテイストを求める分野ー ▲いつの時代も、ものすごく多いんじゃないでしょうか。マスプロダクショ - たとえば日本酒や和菓子の世界 一九五四~五七年)

描 き

世 紀 か 6 九 一〇年代

★図一…寶丹の雑誌広告(『風俗画報』一九○八年)。



★図二…花王・鹿印・二八水広告(『花王石鹼七十年史



たくさんありますよね。し……、あと原弘さんが手がけた豪華本の装幀でも題字に書を使ったものはでは、実篤の書や画を原色版で挿入するのがひとつの呼び物になっている

文字集が!いを、明確にしたかったからなんです。すごく実験的なんですよ、この描きいを、明確にしたかったからなんです。すごく実験的なんですよ、この描きというのも、これから見ていただく大正元年に刊行された描き文字集との違ただ、ここで紹介したかったのは、あくまで明治の書き文字事情なんです。

移行したという印象ですね。えたときにも、同じような変革があって、完全に「書く」から「描く」へとうさきほどマウスに持ち替えたときの話がでましたが、筆からペンに持ち替

| 書の文字の形、それからいわゆる描き文字の形、その差は大きいんでしょ?

のかという問題にとても興味があるんです。観が新たに形成されてくるんですが、その変革がいつ、どのように行われたある時期を境に、西洋的な書体観が流入してきて、今日まで繋がる描き文字は、基本的に江戸の流れを引き継いだといってもいいかもしれない。それが本もちろん。文明開化という社会革命があったとはいえ、明治期の書き文字

です。 です。 一九一二年、大正元年に稲場小千(本名=虓ご)という人が『実用図案装の力一二年、大正元年に稲場小千(本名=虓ご)という人が『実用図案装の力・三年、大正元年に稲場小千(本名=虓ご)という人が『実用図案装

同書の序文を紹介しておきます。 なぜ彼がこんなことに取り組んだのか……、

ると、 せて、 屈ませて、其恰向を眺めると其の持つてゐる常。 飾用の文字にはならないであらうか、不図かと云つた方がよい位でせう。果して仮名は装 直線と曲線とは、 方面に於ては、 仮名平仮名が、 装飾用の文字として、殆ど遺憾なく研究され う考へたのが、 てゐる漢字羅馬字は別として、 其形態の俗悪なと云はうより、寧ろ此での名が、装飾的に用ひられたものを見 存外面白い形をなす様に思はれます。 殆ど顧みられずに過ぎて来た 此試みの動機で、私は先ず仮 種々様々な姿と振りとを見 我国固有の片

●このあたりが源流?

▲この本のことは府川充男さんから教えてもらったんですが、確認できたなかではもっとも古ったの本のことは府川充男さんから教えてもら

うという発想はなかったんじゃないかな?▲ たしかに。きっとこれ以前から、いろんな人源流にしてはなかなかこなれているね。

★図三 - 一…稲葉小千『実用図案装飾文字』(興文社、一九一二年)より

でイウオカキクケコガラス セソタチツテトナニスネノ ・ハヒフヘホア三ムナモウィ 113ラリルレロクサウェ

アイウエオカ

キクケコガリ

スセソクテツ

テトナニスネ

ノハヒフつボ

マミムグモヤ

イユエヨラリ

ルしロワガウ

エヨソ

チでたエピアで

もかはないるだ

プラテブラトナ

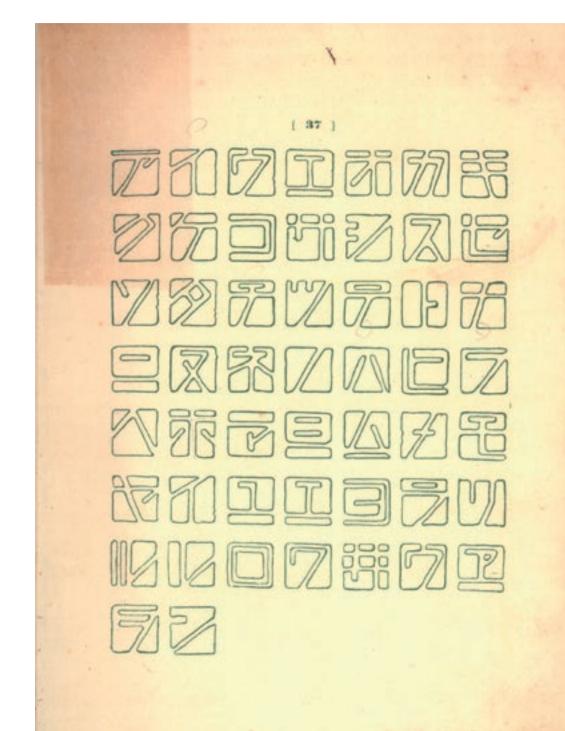
ニスネノルヒョ

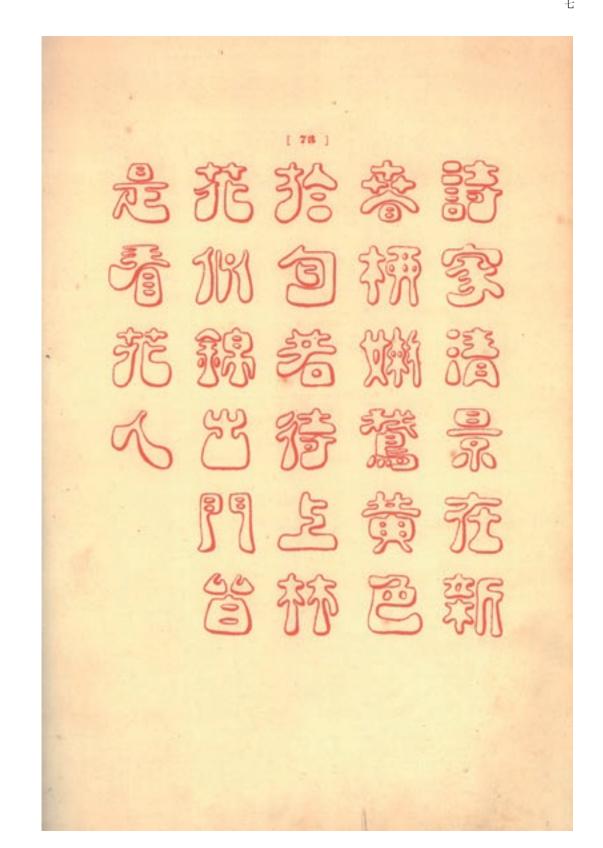
へがマミムナモ

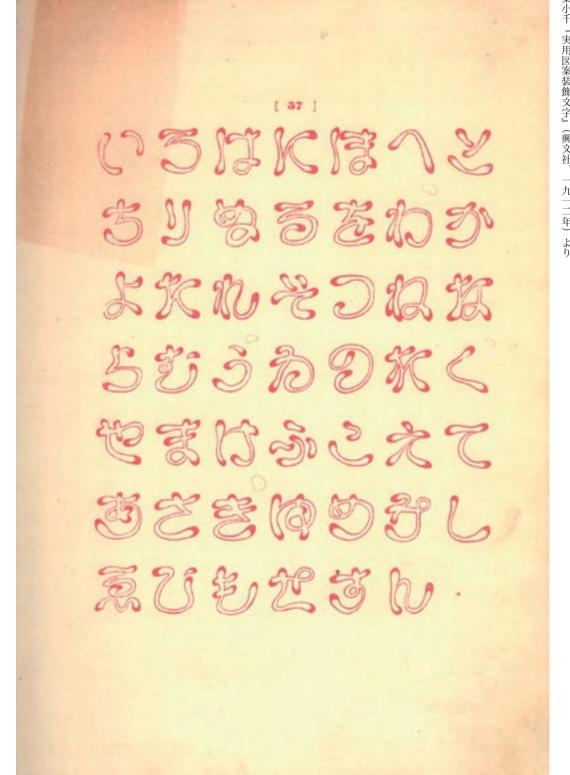
でてユエヨラリ

ルレロコ#ゴエ

7 J







おれがやろうとしているじゃない。

ス、一九三○年)より 『現代商業美術全集』第十五巻「実用図案文字集」(アル★図四…典型的な「雫文字」(右)と「裾引文字」(左)、

表現が、突如として芽生えてくるんです。 ジャポニスム、つまり日本から西洋社会に伝えられた文化を礎にしているん ですね。ところが、それが日本に逆輸入されると、いままで日本になかった アール・ヌーヴォー様式の影響なんですが、そもそもアール・ヌーヴォーは ▲ それが大問題なの(笑)。なぜ問題なのかはこの章の最後で総括するとし 「雫文字」や「裾引文字」といわれる大正期特有の下膨れ様式は、明らかに ボクが一番おもしろかったのは、アール・ヌーヴォーの逆輸入ですね。

りがちだよね。

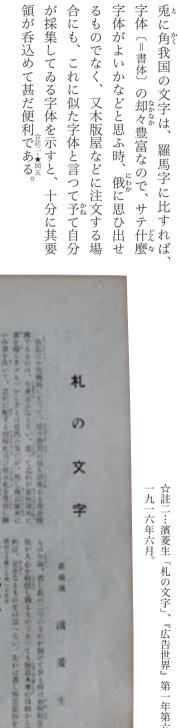
の文化からペンの文化へと移行したという印象ですね。 明らかに欧米の文化や流行を意識して、日本語の書体観が変化しだした、筆 て、代わりに斜体のようなアルファベットの価値観が導入されているんです。 ▲ 書体に関していえば、さきほどの明治の書風なんかみごとに切り捨てられ

うは断言できない。 ただ、そういった発想がひろく一般にまで行き渡っていたかといえば、そ

いるんですが、 『広告世界』という雑誌に、横浜のある商店主が投稿した記事が掲載されて 彼はこう主張するんです。

一九一六年六月。 ☆註二…濱菱生「札の文字」、『広告世界』第一年第六号、

問 別 店



るものでなく、

体をアイデアの源泉にした稲場小千とは、正 ているんです。 などから収集した描き文字を、誌上で公開し と明言し、 の書体表現のほうがバリエーションが豊かだ 反対の認識なんです。この商店主は、日本語 しかもその例証として、新聞広告 欧米で流行する装飾様式や欧文書

告などで、多種多様の描き文字が使われてい たという証でもあるんだけど。 本にもいろんな書体がある。で終われるんで ないんですよ。外の世界を知らなければ、〝日 がバリエーション富んでいることは、なかば 一般常識化してますけど、ここではそうじゃ 現在では、 逆からみれば、すでに新聞広告や雑誌広 邦文書体よりも欧文書体のほう

看水ウツマキ のせたいい 石鹼 時温電器 ホーカー液 太田昌散 蜂印香窟 花ではき 2 1 カオル 蘭部酒 70-爲屋吳服店 婦人雜誌 未た見る親 直影 クラブ

★図五

0.10

介されたことなどを機に、科学的なアプローチから広告を見直そうという動業者イントになるんです。アメリカで盛んだった心理学的な広告研究が翻訳紹 きが芽生えてきます。そういう時代です。 ▲『広告世界』は一九一六年、稲葉の描き文字集が一九一二年です。 広告史の分野では、 第一次世界大戦の前後が日本の広告表現のター ニング

稲場さん てどこの人ですか?

- (春陽堂、 田秀との共著、興文館、一九一八年)があるから図案畑の人かな。 ▲詳しくはわかりません、版元は東京ですね。共著に『中等図按教科書』(岡 一九一八年)という著作もあるけど(笑)。 『日本結髮史』
- ないの。 すごくいいね。 ●この時代にこれをやったのがすごいんだよね。業界から相当、 ても誰も使わない。 聖人みたいな人。絶対批判されることはわかっているし、こんなことや 個人的にはラクダのモモヒキみたいなの(O-九頁、図三-四)が、 迫害されたんじゃ 5
- ら、それなりに評価されていたのかもしれませんね。 ▲ただ、一九一七年にこれの増補版がでているんです。 ということは当時か
- 小宮山さん、大正元年の時点で、 長体、 平体、 斜体と取り組んでいたという点とか……。 活字の世界と比べてどうなんでしょう
- 横を太く して縦を細くする方法は、ファンテールに近いから以前からあったはずです。 ないということですよね。 ▲ 長体で描いたということは、活字化されることを念頭に描かれたものでは
- ないかな。 ますよね。 ていたところはおもしろいですね。イタリックというのは海外の状態をみれば当然でてき ら直接影響を受けた事例はほとんどいないと思いますけど、そんななかで横組みを意識し れは確実に縦組みを意識しているからでしょう。 こいうのは、 これも欧文書体の影響とみるべきでしょうね。 当時から日本の活字は平体が主流ですよ、横に対して縦が三分の二とかね、そ たぶん横組みを意識しているというか、 たぶんこの時代の活字横組みで、欧米か 横方向への意識が強いんじ

Advertising』(一九〇八年)。

名の由来ははっきりしないが、Fantail(孔雀バト)の尾収録されている「フワンテール」書体。制作時期と書体 ★図六…ファンテール(Fantail)明治三十六(一九○三)

號裝飾書體見本

20

ゴチック形 (シャテッド 包放

奉 ゴチッ 敬 ヤケッド形 恭 謹 賀

歡 繆 髗 劕

色

フ ソ 椞 彩 Œ

敬 恭 謹

불

或 雚劜 業

> 一跳装飾 書 體見 木

貴 謝 家 謝 萬 萬 y > 褔 平 福 素 厚 厚 誼 誼 疎 疎 情 遠 遠 尙

三號裝飾書體見本

倂 萬 厚 祈 7 誼 平 シテ 2 情 r 尙 之 疎 不 遠 相 貴 變

所 燈 鞋 版 招 地 鄉 筑 Ա 社 行 此 株

のではないでしょうか。 よね。そうした状況のなかでこういうことを意識したというのは、それなりに意味がある なか接する機会がない。まして欧文書体の活字見本帳となるとほとんど別世界の代物です すごいなと思うのは、 通常、活字書体帳を見るのは印刷関係者だけで、一般の人はなか

- ■『広告世界』の筆者は横浜の人でしょ? 外国の商社がたくさんあった時代ですから。 的な広告活動とか店舗装飾の需要と直結していた気もしますけど。『広告世 界』の筆者は一商店主で、自身の商売のために描き文字のサンプリングをや も経済界の意識がどんどん高まっていたと捉えることはできないでしょうか。 ってたわけですよね。実際の描き文字の需要はもっと広くて、活字業界より ▲そんなに印刷業界を意識してたのかな? もっと引札 (チラシ) などの実務
- ▲ところが、内容は日本の書体が豊富だというところがミソで。一商店主が 字の姿がありましたという程度なんです。 字の姿がありましたというという気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 に描き文字のサンプル帳を用意しておくと、引札屋さんがすぐに理解して いう気配もない。新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろということが いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 でするんです。 実際、ものすごく特殊な集め方をしたと いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文 いう気配もない。 新聞や雑誌からスクラップしてみたら、意外にいろんな文
- まあ、 ああそうだよなーというニュアンスが受け取れたんじゃないかな。 を見ているだけでは意味が通じないわけ、 ついているんじゃないの。ここに描き文字の神髄みたいのがあってさ、外国の文字 日本語だから読めるわけ。読めるから商品名と描き文字のデザインが結び 形だけはわかるけど。、粉白粉、なんて、
- ど。▲一九一○年代半ばになると、商標に独自の描き文字、いわゆるロゴタイプ

いう指摘してるんです。(笑)。だから使いすぎないように注意しろと(「八八八~一九五四)という人がいるんですが、彼なんかは、描き文字を使い大正から昭和にかけて、商店経営研究の第一人者として活躍した清水正己

- わかるね。この『広告世界』なんかみてもあまり描き文字は載ってないね。罫ば か り。
- 明治以降、 各活字鋳造所から「花形」がものすごく大量に発売されていていました。そ 在の広告みたいに、欧文をそのまま用いたものも徐々に増えてきますけどね。 店でも使えるフレーズの描き文字が掲載されるようになるんです。 ばきれいな広告が簡単にできます、だから雑誌を買って下さいという仕掛け えるというのが売りものだったんです。コピーフリーで、商店名さえ入れれ なんです。二○年代に入ると「夏の大売り出し」みたいに、どんな業種の商 ▲一九一○年代から三○年代の広告業界誌の口絵は、切り取ってそのまま使 同時に現
- れを買って使うというやり方がありましたよね。 それと同じですね。清水正己の場合は、欧米の広告表現を基本
- ▲そうそう、それと同じですね。清水正己の場合は、欧米の広告表現を基本▲そうそう、それと同じですね。清水正己の場合は、欧米の広告表現を重視するんです。だから描き文字よりも、イラストレーションやコピー

同じですよね(笑)。
つまり平野さんが現実に直面している問題、編集者から指摘される問題と

● このへんからだんだん、そういうイヤな人が出てきたんだ(笑)。

字」、『日本印刷界』第八十七号、一九一七年一月。☆註四…清水正己「象徴としての広告に於ける絵画と文

☆註五…組版の輪郭や内側を飾る装飾活字(border) コーナーに使う装飾活字(角花)や、連続して組み合わ コーナーに使う装飾活字(角花)や、連続して組み合わ ント(ornamental dash)という。明治・大正・昭和の 活字総合見本帳の大部分は花形やオーナメント、電気銅 版と題された装飾画で占められており、その比重は文字 版と題された装飾画で占められており、その比重は文字

